居場所サポーター講習会開催報告

第1回
「居場所って何？～若者・子どもの居場所づくり～」
講師：青砥恭氏（NPO法人さいたまユースサポートネット代表理事）

2024年1月19日の金曜日、午後7時から9時まで、鶴瀬西交流センターの多目的ホールにて、居場所サポーター講習会第1回を開催しました。

テーマは「居場所って何？～若者・子どもの居場所づくり～」で、講師には青砥恭（あおと やすし）氏（NPO法人さいたまユースサポートネット代表理事）をお迎えしました。
2回の講座で、第1回は「居場所や若者・子どもの基本知識を学ぶ」との内容でした。この講習会には、スタッフ14名と参加者24名が集い、有意義な時間を共有しました。

講演では、「こども基本法」や「こども大綱」に基づき、子どもたちを対等な存在として尊重することの大切さを、丁寧にお話しいただきました。特に、子どもの権利条約を参照しつつ、子どもたちの権利を尊重し、子どもの声に耳を傾けることの必要性が強調されました。

青砥氏は、子どもや若者が抱えている現状について、詳細にご説明くださいました。不登校、高校中退、虐待、貧困などの課題が取り上げられ、これらの背景にはいじめや教師との関係、コロナ禍による社会的孤立などがあることを説明しました。また、子どもの貧困問題にも注目し、教育や福祉支援の必要性についてお話しいただきました。子どもたちの居場所作りにおいては、学校だけでなく地域社会の関与の重要性を、分かりやすく強調されました。地域が協力して子どもたちの社会的なつながりを強化し、安全で健全な成長環境を提供することが求められているとのことでした。子どもたちの自己肯定感や幸福感を高めるためには、子どもが社会の一員として尊重され、参加する機会を持つことが大切です。

さらに、NPOや地域組織が子どもたちを支援する上での役割についても触れられました。非営利組織や地域ネットワークを通じて、学習支援や相談活動、子どもの居場所づくりが行われている実例が紹介され、これらの取り組みが子どもたちの生活の質を向上させるために重要であることが述べられました。途中のグループワークでは、義務教育後の居場所の不足や参加者同士の感情の共有の難しさについて、意見が出されました。

最後に、青砥氏は、子どもたちが自分の意見を表明し、社会に参加することで、子どもの権利が保護され、より良い未来が築かれるというメッセージで締めくくられました。この講演は、子ども・若者の居場所づくりに関わるすべての方々にとって、考えるべき重要な内容を含んでいたと思います。

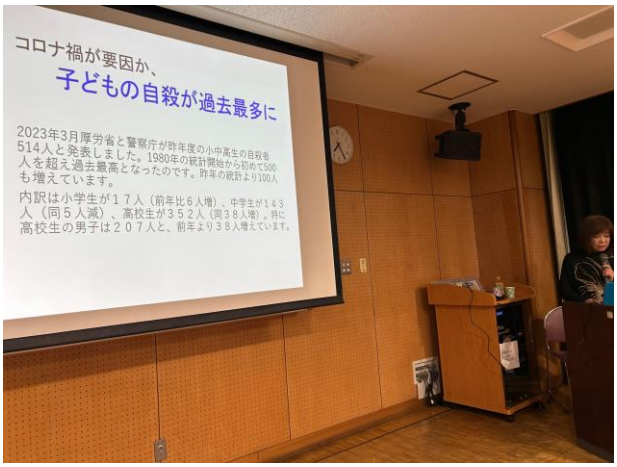
第2回
「現場（＝実際の居場所）の話を聞く」
講師：金子由美子氏（さいたまユースサポートネット副代表）

2024年2月2日の金曜日、午後7時から9時まで、鶴瀬西交流センターの講座室にて、居場所サポーター講習会第2回を開催しました。

テーマは「現場（＝実際の居場所）の話を聞く」で、講師には金子由美子氏（さいたまユースサポートネット副代表）をお迎えしました。この講習会には、スタッフ13名と参加者20名が集い、有意義な時間を共有しました。

講演では金子氏が、運営する若者自立支援ルーム「桜木」と「南浦和」について、その貴重な役割と達成された成果について熱心に語りました。これらの施設は、義務教育を終えた若者から39歳までの方々が、学校や社会生活での困難を乗り越え、自立へと向かう支援を受ける場所です。金子氏によれば、桜木ルームは9年目を、南浦和ルームは開設から1年を迎え、地域の住民、利用者および保護者の積極的な参加とフィードバックがこれらのルームの成功に不可欠であったとのことです。

新型コロナウイルスの影響により、運営に多大な影響が出たものの、職員たちは日々待機し、オンラインプログラムやアウトリーチによる外出面談など、新しい方法で利用者との交流を続けました。このような努力により、多くの若者が自信を持ち、アルバイトや社員としての就労、一人暮らしの開始、大学や専門学校への復学や進学といった自立の一歩を踏み出すことができたとのことです。

金子氏は、自立支援ルームが提供する安心できる居場所の重要性、個別のニーズに応じた支援、社会的な活動体験を通じた自立のための力の育成、そして地域や関連機関との連携の重要性について強調しました。これらの取り組みは、さまざまな課題に直面している若者たちが自立への道を模索する上で不可欠であると述べていました。

最後に、グループディスカッションの時間として、金子氏の講演をもとにそれぞれの感想を話し合う時間を持ちました。参加者の皆様にとってより良い時間になったことを願っています。